

# 保育原理における手遊び指導の実践

## —日本語と英語の手遊びを用いて—

横井一之\*

### 1. 研究の目的

保育原理では、保育原理、保育史、保育内容、保育方法、発達、遊び、環境構成、保育課程等、指導内容は多い。本学教育学部には、学校教育専攻、保育専攻、養護教育専攻の学生がおり、この教科に対する学生の興味や関心には温度差があるのが事実である。幼稚園教育要領にあるように、幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習である。筆者は、このことを伝えることが保育原理で最も重要なことと考える。

小学校学習指導要領に2018年から3年生の外国語活動が取り入れられる。学校教育専攻の学生は、教師になったとき小学生に英語を教える立場となる。

一方、幼児期の教育課程・保育課程に英語教育は取り上げられていないが、多くの幼稚園や保育所で英語指導が取り入れられている。ベネッセ教育総合研究所(2015)の調査によると、外国語を学ぶことに力を入れる母親は32%を越える。英語教育、グローバル化はこれからの教育のキーワードである。

保育原理の授業では、今後の学生の学習に役立ち、かつ保育原理の真髄を伝える教材として、毎回の授業で手遊びを2曲取り入れることにした。できるときは、日本語の手遊びを1曲、英語を1曲取り上げた。本稿では、15回の授業で手遊びを取り入れた様子を示す。そのうち、4回について、学生アンケートを通して、保育原理の授業に手遊びを取り入れた効果について検討する。

表1 取り上げた手遊び

No	年月日	曲番	タイトル1	曲番	タイトル2
1	20150406	1	青虫でたよ	101	5 little monkeys jumping on the bed
2	20150413	2	むすんでひらいて	101	5 little monkeys jumping on the bed
3	20150420	3	まがりかど	103	Open shut them
4	20150427	4	パン屋に5つのメロンパン	103	Open shut them
5	20150511	5	大きな栗の木の下で	105	Under the spreading chestnut tree
6	20150711	6	とんとんとんひげじいさん	106	Hands on
7	20150525	7	かなづち とんとん	107	Jphnny bangs with one hammer
8	20150601	8	ぞうさんと くものす	108	5 little ducks
9	20150608	9	ごんべいさんの赤ちゃん	109	Little Peter Rabbit
10	20150615	10	ぶんぶくちやがま		なし
11	20150622		なし		なし
12	20150629	11	ちゃつぽ	12	お正月のもちつき
13	20150706	110	Eensy Weesy Spider	111	Hickory Dickory Dock
14	20150713	13	まるいたまご	14	山小屋いつけん
15	20150720		なし		なし

\* 東海学園大学教育学部教授

## 2. 授業で取りあげた手遊びについて

手遊びの正確な定義やその分類はここでは行わない。幼児が歌いながら、体や、腕、手、足を動かす活動を単に手遊びと呼ぶことにする。保育専攻の学生は、実際の保育者になったときは、毎日手遊びを子どもの前で行うことになる。保育原理では、筆者と一緒に2曲の手遊びを2回ずつ行った。実際に行った手遊びは表1に示したとおりである。

## 3. 手遊びアンケートについて

保育原理の授業の中で、2曲ずつ手遊びを学生と一緒にいき、その度に各手遊びについて、その手遊びの印象について、①面白さ、②覚えたか、③易しさ、④伝えたい、について強い肯定：4点、肯定3点、否定：2点、強い否定：1点として応えさせた。併せて、感想を記述させた。学生と演じた23曲すべての手遊びについて分析できるとよかったが、ここでは表2にあげた8曲を対象として、そのアンケートの分析を行った。

表2 分析に用いた手遊びの特徴

No	曲番	タイトル
1	2	むすんでひらいて
	特徴	J.J.ルソーが作曲した曲で、誰でも幼児期に遊んだ手遊びである。
2	101	Five little monkeys jumping on the bed
	特徴	5匹の小猿がベッドの上で跳んで遊び、こぶを作る。すべての小猿がこぶを作り、話は終わる。
3	7	かなづち とんとん
	特徴	拳を金づちに見立て、右手、左手、右足、左足、頭を金づちのように叩き終了。
4	107	Johnny bangs with one hammer
	特徴	Johnnyがかなづち とんとんを演じる。ただし、Johnnyは最後寝てしまう。
5	8	ぞうさんと くものす
	特徴	ぞうさんがクモの糸の上で踊っている。楽しいので仲間を呼び、2頭、3頭、・・・と増えていく。
6	108	Five little ducks
	特徴	「ぞうさんと くものす」と同じメロディで、5匹の子あひるが全員で池にかけ、1羽ずつ戻らなくなる。5回出かけ、1羽も戻らなくなると母アヒルが出かけ全員を連れて帰るという手遊び。
7	13	まるいたまご
	特徴	まるいたまごが割れて、かわいいひよこが出てくる手遊び。
8	14	山小屋いっけん
	特徴	山小屋におじさんがいて、ウサギが猟師に追われ逃げてくる。

### (1) 手遊びの人気順

8種類の手遊びについて、①～④の評価点をもとに、平均点の高い順に並べたのが表3である。また、その値を積み上げると、図1のようになる。

面白い手遊びは得点順に「かなづちとんとん」、「ぞうさんとくものす」、「まるいたまご」である。

覚えた手遊びは、順に「むすんでひらいて」、「かなづちとんとん」、「5 Little Monkeys Jumping on the bed」である。

易しいと思う順は、「むすんでひらいて」、「かなづちとんとん」、「ぞうさんとくものす」である。

伝えたいと感じる順は、前項目「易しい」と同じである。

表 3 手遊びの各項目の平均点・回答者数

曲番	曲名	面白さ	覚えたか	易しさ	伝えたい	平均点	人数(人)
2	むすんでひらいて	3.20	3.74	3.81	3.40	3.23	77
7	かなづち とんとん	3.56	3.40	3.40	3.21	3.11	77
101	5 Little Monkeys jumping on the bed	3.21	3.01	2.74	3.08	2.81	78
8	ぞうさんと くものす	3.43	2.71	2.85	3.05	2.81	82
13	まるいたまご	3.24	2.59	2.74	2.79	2.67	76
14	山小屋1軒	2.92	2.40	2.52	2.67	2.50	75
107	Johnny bangs with one hammer	3.11	2.27	2.29	2.69	2.47	75
103	5 Little Ducks	2.89	2.20	2.37	2.66	2.42	79

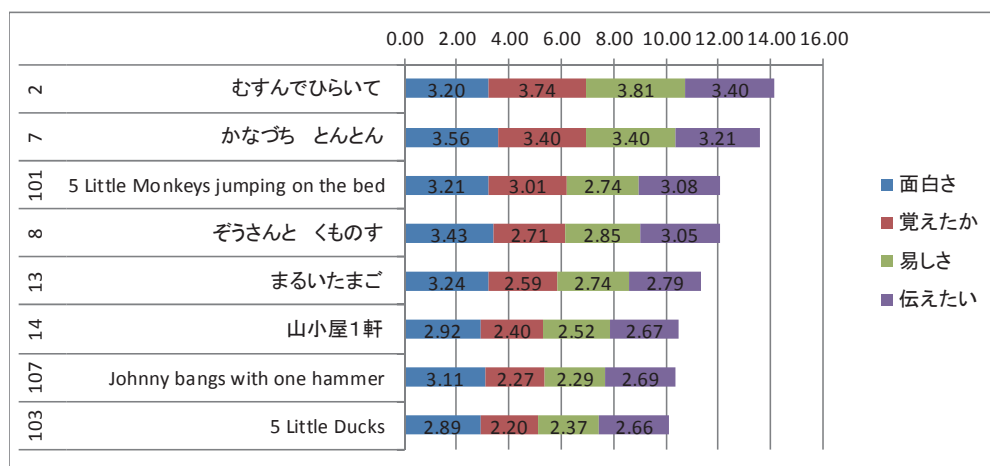


図 1 手遊びの人気順

(2) 学生の感想より

学生の手遊びを演じた感想を、実施した順に従い主だった 5 名の学生分を記述する。

①むすんでひらいて

- 久しぶりにやりました。教室にいたみんなもやっていて、一体感を感じました。有名なものだったので伝えたいところは 1 点ですが、ルソーが作ったとは驚きです。
- なかなか覚えやすいものだったと思った。リズムもいいし、面白いので子ども受けが良いと思った。これらの理由から、幼児には絶対教えていきたい。
- いろいろなアレンジがある曲だと思った。最後は、手をキラキラさせると覚えていたので、少し違和感があった。これが正規版だと思った。手をたたくことで、一体感がでてなごむなあと思った。簡単なので、3 歳ぐらいの手でもできるところも、良い遊びだと思った。

② 5 Little Monkeys jumping on the bed

- まだ、恥ずかしくてあまり歌ったり踊ったりすることができませんでした。自分の殻を破ってしっかりやらなければならないと思いました。
- 子どもは全然歌えないような雰囲気だったので、やっぱり伝えるべきか迷ってしまった。リズムや動きが良いので、多少覚えにくいのではと思うけれど、覚えてみんなでやれば盛り上がるだろうと感じた。
- 実際に書いて見ることで、先週よりも英語を覚えたし、英語で読むうちに意味も分かってきた。覚えることは、難しくても繰り返し行えば覚えられるので、子どもは特に覚えが早いので、こういった英語の手遊びで、小さい頃から耳を慣らしていけると思うので、伝えたいです。

③かなづち とんとん

- 手を交互に動かす仕草より、同じように動かす仕草の方が子どもたちはやりやすいのではないかと思った。飛び跳ねたりしているのを見ているのはすごい。おもしろかった。
- 5 本のパターンしか思い浮かばなかったのですが、3 本のパターンの方がして子どもに受けそうだと

と思いました。5本の方は、首を振りながら手足をトントンするところが面白いと思いました。

- c. 交互にトントン叩いた方が幼児にとって簡単なのか、両手同時に叩いた方が簡単なのか、とても気になりました。私の予想だと、同時の方が簡単だと思いました。

④ Johnny bangs with one hammer

- a. 分からない英語の単語があるから、子どもは意味が分からないまま覚えているが、教える意義があるかどうかと思った。繰り返すだけ、全身を使うので面白いと思う。
- b. 何で最後に英語の歌詞の方は寝てしまったか気になる。英語で歌うのはとても難しいと思った。自分で分かる単語がハンマーだけしかなかった。
- c. 日本語の歌詞では「これでおしまい」となるところを、Sleepで終わらせているのが面白いと思いました。かなづちとんとんと比べると、ちょっと難しかったです。Sleepのところで、寝るポーズをした方が面白いと思いました。

⑤ ぞうさんとくものす

- a. 仲間を呼んで5人ぐらいでやるというのは面白いと思いました。小さい子は喜んでくれると思いました。
- b. 短い曲なので分かりやすい。仲間を何人でも増やすことができるので、子どもの友だち作りにも歌えると思った。
- c. 少しメロディーが難しく覚えづらかったと思いますが、体を動かせる点ではいいと思いました。面白いです。

⑥ 5 Little Ducks

- a. メロディーが「ぞうさんとくものす」と少し違うが、ほとんど同じなので楽しいと思う。また、英語の方が子どもたちにも興味があると思う。
- b. 日本語とは違って、子あひるの数がどんどん減っていききました。歌詞も動物も違ってびっくりしました。日本語とは振りも違って、まったく違う曲を聞いているみたいです。併せて覚えるのは大変だと思いました。また、歌詞が悲しいです。最後はハッピーエンドになってよかったです。
- c. やはり、英語になると難しさは日本語のものより増すと思います。ですが、これも数が増えていくのを理解したりすると思うので、英語の力も伸びることができると思います。

⑦ まるいたまご

- a. ひよこが卵から生まれるという育ちが学べるのでいいと思った。歌もかわいらしくて、体全体で表現できるので、子どもの表現力が上がりいいと思うし、クリクリ、ピヨピヨなどの言葉を使うところも表現力を磨けるのでいい歌だと思った。
- b. 女の人または女の子が演じればかわいいと思うが、男の先生（筆者）が演じると少しきつい（気持ち悪い）と思いました。生命のことに触れていて、よいと思いました。
- c. 手がものすごく動くので、テンポを変えて、速くしたり遅くしたりすると、子どもが喜んで速さに合わせようと思うと思った。このように、テンポを変えたり、歌詞を替えたり、応用ができるので良いと思った。

⑧ 山小屋 1 軒

- a. 動作が可愛いと思った。ウサギのポーズと跳びはねるところ、また助けを求めるところも、子どもは盛り上がり楽しめる歌だと思った。結構長い曲だと感じた。途中の鉄砲の部分は男の子が好きそうだった。ウサギを抱くなど想像力も着くと思った。
- b. 日本はピストルが実際にはないので、「バーン」としてもそれがいけないことで、危ないものだとわかるけれど、アメリカなどのピストルを持っていい国でやるのは、危険だと思いました。→ピストルで本当に撃ってしまいそう。安易なものと考えてしまいそう。

この歌をアンパンまん Ver で聞いたことがあります。山小屋→パン工場、猟師→バイキンまん、ウサギ→チーズ、おじいさん→アンパンまん。

- c. 歌のフレーズごとに細かい動きが設定されていて、少し難しいと思った。「怖いんです」「もう大丈夫だよ」のところ、表現力が向上する。先生（筆者）が演じていたやり方のほうが、ピストルの音が「バン」と入り、楽しくなり良いと思う。

## 4. 考察

遊びを通して学習することの実体験として、保育原理の授業内で学生に手遊びを指導した。手遊びを通して幼児なら何を学ぶかを知り、そして学生自身も手遊びを通して「幼児教育の方法の1つ」について学習できたかどうか論じたい。

表1に取り上げた手遊びをまとめた。日本語の手遊びは学生は聞きなれているので、1週間に1曲の割合、英語の手遊びは慣れるのにやや時間がかかるので2週間に1曲の割合で指導しようと考えた。しかし、この指導を通して、日本語の手遊びでも学生が知らない曲が多いことがわかった。そこで、日本語と英語の手遊びを1曲ずつの割合として、毎回それぞれより丁寧に指導することにした。今回、アンケートの対象とした4月13日に指導した101Five Little Monkeys Jumping on The Bedは、この日2回目の練習後のアンケートであった。これ以後は、すべて1回の授業ごとに日本語と英語各1曲ずつの指導後のアンケートである。ただし、6月29日と7月13日は2つの曲とも日本語の手遊びである。

### (1) 手遊びの人気順に関して

3.(1) 手遊びの人気順によると、人気が高い順に3曲並べると「むすんでひらいて」「かなづちとんとん」「5 Little Monkeys Jumping on The Bed」の順である。同(2)学生の感想を読むと、学生にとって「むすんでひらいて」は幼児期によく口にした曲であり、さらに作曲者が幼児教育思想家として教えるルソーという意外性がその人気を押しよすようである。

「かなづち とんとん」では、「2番に『2本でとんとん』と歌詞が出てくるが、この際左右同じ時に手をとんとんとするか、左右交互にとんとんとするのではどちらが子どもにとって容易だと考えられますか」と演じるときに課題を与えた。その結果、学生は自分で課題を確かめるように、主体的に手遊びに取り組めたと考えられる。発達理論で考えると原始反射である非対称性緊張性頸反射の名残があり、交互の方が演じやすいと考えられる。また、2番では両手を、4番では両手と両足を同時に上下すると、重心の移動が激しくなり、子どもにとって演じることが難しくなる。

「5 Little Monkeys Jumping on The Bed」はそのストーリーは「5匹の子ザルがベッドで跳んで遊んでいた。1匹がベッドから落ちてこぶを作った。お母さんが医者へ電話をすると、医者は『子ザルはベッドで跳んではいけない』と言った。」というものである。医者でなくても言えることが落ちになっており、その様子が子どもらしいので人気があると思われる。ただし学生の感想を読むと、歌詞の暗記に気が行っていることが分かる。筆者の指導が不十分で、学生は英語の歌詞を覚えることに集中しており、手遊びを十分に楽しんでいるとは言えない。また、1年生ということもあり、人前で手遊びをするのが恥ずかしいという学生もいる。そういう精神段階の学生が、この授業で、保育教科担当の教師、保育者を目指す友人がごく当たり前に手遊びを演じる姿を目にすることは、保育者・教育者としての自覚を高めるうえで、大きな効果があったと思う。

「ぞうさんとくものす」は、2歳児なら手遊びをしながら保育者のまわりに順番に集まっていき、最後はみんな集まって重くなったのでくものすが落ちてしまうという遊び方になる。4、5歳児ならジャンカ風に踊り順に人数を増やしていくという遊び方ができる。リズムカルで楽しい手遊びである。

一方「ぞうさんとくものす」と同じメロディーで、5匹の子あひるが登場する手遊びが「5 Little Ducks」である。学生アンケートでは、面白さの平均点が2.89点で最低点である。学生の前で演じたのは筆者で、その演技力の貧弱さにより面白さが十分に伝わらなかったのは残念である。学生の感想を読

むと、英語の歌詞を十分に理解できていないことが分かる。時間をかけて、学生が十分に歌詞を理解してから手遊びを演じていたら、もっとこの手遊びの面白さをより深く理解できたと思う。

「まるいたまご」は「まるいたまごが ぱちんとわれて かわいい ひよこが ぴよぴよぴよ」という歌詞で、振り付けは 2 歳児が演じることができる手遊びである。学生の感想 (2) ⑦ b. には、「男の先生 (筆者) が演じるのは少しきつい (気持ち悪い) と思いました。」とおそらく男子学生だと思われるが、記述している。この学生には、「かわいい ひよこ」の振り付けが、「右手を左の胸へ、左手を右の胸へ」という動作について、うまく理解できなかつたようである。筆者は単にこの学生の保育観の貧弱さゆえの感想だと考えるが、この学生にとっては、男性保育者である筆者が、2 歳児向けの手遊びを演じることにより、それを目にして保育観を膨らませていくと思われ、とてもよい機会だったと思う。

「山小屋 1 軒」はストーリー性があり、子どもには人気のある手遊びである。しかし、大学生には人気があまりない。ピストルが話題になっているが、活動的な男児はピストルによる撃ち合いが好きである。もし長い枝などの使用を許している幼稚園等があれば、チャンバラごっこをする男児は多いと思われる。このピストルだが、筆者はかつてオーストラリアの幼稚園でこんなシーンを目にした。子どもマイク「バン、バン」、保育者トモ「ノーピストル プリーズ マイク」、マイク「オーケー、トモ」、トモ「サンキュウ、マイク」と。このように、ピストルについては日ごろからしつけているようである。ところが、この幼稚園では、剣は画用紙、折り紙で作っても許容されていた。オーストラリアの国情を踏まえ、騎士道文化も加味すると理解できる。日本の国情的にとらえると、第二次世界大戦以前は日本国内に一部であるがピストルは存在した。戦後、一部の特殊な人以外はピストルと関係ない生活をしている。子どもが本物のピストルを手にする可能性はほとんどない。よって、保育中に子どもがピストルを撃つ真似をしても、現実離れしていることなので問題としてとらえず、そこで保育者は指導しない。

「Johnny bangs with one hammer」は、「かなづちとんとん」の英語版である。メロディーは少し違う。他の英語の手遊びは You Tube などパソコンで検索すると、動画を多く見つけることができる。しかし、この Johnny・・・はこの検索でなかなか見つからない。この曲は、横井 (2006) がオーストラリア・シドニーの保育園を訪問したときに、「かなづち とんとん」を子どもに披露し、同じ手遊びがあるとシドニーの保育者から教えていただいた手遊びである。

## (2) 全体をとおして、まとめ

手遊びに関する学生の感想をよむと、そのほとんどから真剣に手遊びに取り組んでいることが分かる。その内容は大きく次の 3 つに分類することができる。

- ①手遊びの解釈論
- ②その曲の分析及び演じた感想
- ③その曲の教育効果

この学生の感想の中で述べている 3 分類項目こそが、筆者が手遊びを通して学生に理解してほしいことである。一部の学生ではあるが、このように記述したことは、今回の保育原理における手遊び指導は効果が十分あったと考える。つまり、学生は「幼児にとって、遊びは学習である。」と手遊びをとおして理解を深めたと思う。今後は、保育者や教育者を目指す学生にとってより効果的な手遊びについて研究を深め、より質の高い手遊びを提供できるようにさらに努力していきたい。

## 参考文献

1. ベネッセ教育総合研究所 (2015)「第 5 回 幼児の生活アンケート速報版」 東京：ベネッセホールディングズ
2. 横井一之 (2006)「英語保育教材の開発と実践—コアラの手遊びを指導して—」『鈴鹿国際大学短期大学部紀要』第 26 巻, 1-7.